

平成27年度資料

# JA浜中町のご案内

活力ある酪農村と



地域社会との協働

浜中町農業協同組合

## 経営理念

JA浜中町は「組合員の営農と生活を守り、地域社会の発展」に貢献します。

## 経営方針

平成27年度の酪農業界の見通しは、生乳取引価格が早々に3円60銭の値上げが指定団体と乳業メーカーとの間で妥結しています。また、国の対策も補給金はチーズ向けも含め22銭の値上げとなり、4月以降の生産物価格の値上げは例年になく年度スタート前に決定しております。生乳の税込単価は北海道では過去に例のない100円/kgの大台が近づいています。しかし全国的に生乳生産の落ち込みに歯止めがかからず、主な原因である担い手と乳牛資源の減少に対する対策は打たれておりません。また、指定団体から脱退し直接生乳卸業者に販売する法人農場も道内で数戸発生するなど、多様な時代に突入しています。

そのような中で、従来から様々な機会を通じて浜中の生乳に対する取り組みを情報発信してきました。特に昨年放送された番組を通じ、改めて多くの消費者に浜中の生乳は、良質で安心安全、高品質であることが認知されました。

国内ではバター不足がニュースになるなど酪農基盤が低下し、業界として大きな課題となっていますが、個々の生産者にとっては、乳価も値上がりし、逆に大きなチャンスとして捉え、自分の経営にとって必要な生乳生産に取り組んでまいります。

個体価格は乳牛、肉牛とも資源不足や円安に伴う輸入品の調達が厳しいことなどから当面は高値で推移するものと思われます。乳牛資源の確保は酪農・畜産の基本であり、個々の農場の適正頭数を維持することは持続的な経営を行ううえで不可欠です。

生産環境に直結する資材価格は、燃料は原油価格が一時的に値下がりしており、その間は低価格で推移するものと思われます。しかし、飼料をはじめほとんどの資材はデフレ脱却の経済対策の影響もあり高値で推移するものと思われます。日々の生産活動で使用する資材について再度見直し、コストを少しでも抑えることが、より収益を確保するために重要となります。浜中には15,000haの草地基盤があり、町内では余剰牧草が発生しております。自給飼料をすべて町内で使い切り、購入飼料に依存しない経営が求められています。NZプロジェクトは、2戸の対象農家に対し、本格的に調査が始まり組合員への情報提供を積極的に実施します。

TPP交渉も大詰めを迎えていますが、各国の利害が対立し、いまだ方向性は見えておりません。農業、農村社会を崩壊に追い込むことが懸念されるTPP締結は断固反対するとともに国会決議順守を強く働きかけます。また、政府が一方向的に押し付けてきた農協改革については今後とも単協への様々な圧力がかけられることを念頭に置き、当JAの理念である「組合員の営農と生活を守り、地域社会の発展に貢献すること」を前提に事業展開を図ってまいります。

気候変動も激しく、経済状況も不透明ではありますが、食料の生産基地として年々地位が向上しています。更なる乳質改善に取り組み、消費者に高品質の牛乳、乳製品を届けることを使命とし、以下の通り事業運営を行ってまいります。

### 1. 酪農基盤維持対策について

酪農家の減少と乳牛資源の減少に歯止めがかかっていません。全国的に生乳不足が課題となっています。担い手対策に積極的に取り組むとともに、既存の酪農家にとっては乳価も値上がりし、基盤強化にはチャンスが到来しています。

### 2. 自給飼料対策について

放牧宣言を行って数年が経過しました。より効率の良い草地利用を目指すため情報提供と個々の改善策を提供します。

### 3. 家畜防疫対策について

昨年度から実施しましたワクチン接種を継続事業として実施します。また、防疫対策が必要な場合は迅速に実施します。

### 4. 良質乳生産と浜中ブランドの発信について

酪農技術センターの改修に伴い、一層の乳質改善に取り組みます。看板商品の4.0牛乳やハーゲンダッツの原料地帯としての認知が進んでいます。様々な機会を通じてPR活動を展開します。

### 5. 情報提供の迅速化について

組合員との情報のやり取りは電話やペーパーベースで実施しています。メール送信などの普及に伴い迅速な情報提供を検討します。

### 6. 地域社会への貢献について

純農村地帯の浜中はライフラインが脆弱です。生活用品など地域の利便性向上を図ります。

## 沿革、歩み

- 昭和23年(1948) 農業協同組合法に基づき浜中村主畜農業協同組合を設立  
昭和25年(1950) 家畜人工授精所を開設  
昭和29年(1954) 姉別緑栄、厚岸トライベツ地区に入植  
昭和37年(1962) 農村電化事業着手  
昭和44年(1969) 農協事務所店舗新築 農業構造改善事業計画  
昭和47年(1972) 大規模草地開発事業実施 電力三相化事業実施  
昭和50年(1975) 茶内育成牧場夏季放牧開始 ミルクローリー集荷事業開始  
昭和53年(1978) 農協創立30周年記念式典 酪農展望台建設  
昭和55年(1980) 乳検組合設立 福祉定期貯金取扱開始  
昭和56年(1981) 酪農技術センター開設 雪印乳業茶内工場閉鎖  
昭和57年(1982) タカナシ乳業北海道工場操業開始  
昭和59年(1984) 為替取扱開始 協同カード取扱開始  
昭和60年(1985) 金融店舗改装 キャッシュカード取扱開始  
昭和63年(1988) 現金自動支払機稼働開始  
平成元年(1989) 酪農ヘルパー事業開始  
平成 3年(1990) 実績優良農協中央会会長賞受賞 就農者研修牧場落成  
平成 4年(1992) 給油所改築オープン 国営総合農地開発事業完工式  
平成 7年(1995) 農作業受委託事業開始  
平成 9年(1997) 第5次農協中長期計画設定  
平成10年(1998) 農協創立50周年記念式典  
平成11年(1999) 支援システムに対し中央畜産会賞 開発庁長官賞受賞  
平成12年(2000) 金融事務所改築 肉牛団地事業を閉鎖、育成牧場事業で施設管  
平成13年(2001) 営農課の営農指導強化のため、酪農技術センターに事務所移転  
農協事業年度を毎年3月事業開始、2月決算に変更  
平成14年(2002) 情報開示のための酪農技術センター情報システムの増強  
生乳生産量 90,424t達成 乳製品を生産者に進呈  
平成15年(2003) 第6次農協中長期計画設定  
農協事業評価制度の実施  
平成16年(2004) (有)浜中町就農者研修牧場設立  
平成17年(2005) 生産資材店舗改築、生活店舗((有)コープはまなか運営)新築  
平成18年(2006) 金融共済店舗改築  
JAはまなかデイサロン開設  
平成19年(2007) 育成牧場事務所改築  
平成20年(2008) 農協創立60周年 記念誌発刊、映画鑑賞会・植樹祭開催  
平成21年(2009) 第7次農協中期計画設定  
株式会社 酪農王国設立  
平成23年(2011) 株式会社 若牛の里設立  
平成24年(2012) コープはまなか桜店を開店  
平成26年(2014) 第8次農協中期計画設定



## 浜中町の概要

浜中町は北海道東部、釧路市と根室市のほぼ中間に位置する酪農と漁業が盛んな町です。

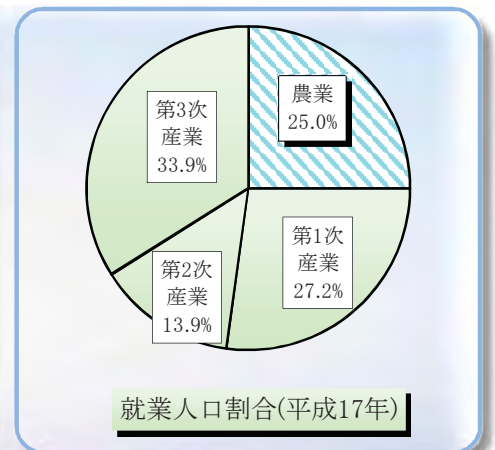
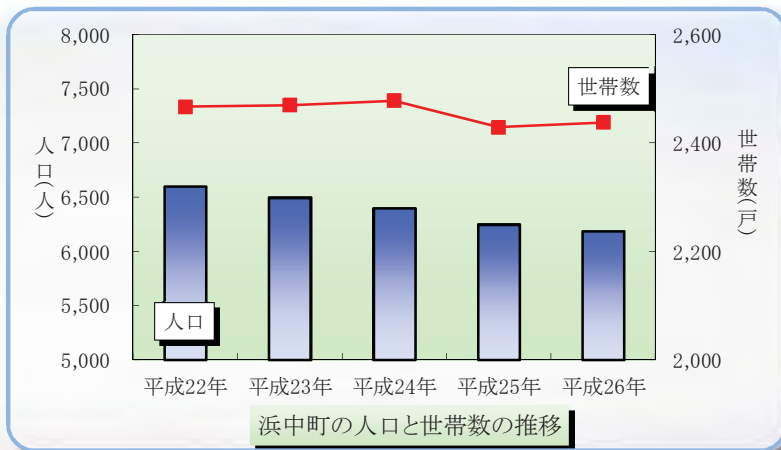
町の南には、ラムサール条約に登録されている国内3番目の広さを持つ霧多布(きりたつぷ)湿原が広がり、夏には多くの花々が咲き誇ります。この湿原を含む海岸線は豊かな自然に恵まれ、美しい景観が広がるシーサイドロードはドライブコースとして人気があります。

内陸はJR花咲線と国道44号線が平行して東西に走り、鉄道の南側は牧草地から森林や湿原、海岸へと続き、北側はほぼ全域が酪農地帯で、15,000haにも及ぶ広大で見晴らしの良い牧草地が広がり、ここで生産される質の高い牛乳はハーゲンダッツアイスクリームの原料として使用されています。



### ◎ アクセス

- ・ 釧路空港から 車で1時間40分
- ・ 中標津空港から 車で1時間10分
- ・ 釧路駅から JR花咲線で1時間10分



琵琶瀬展望台から望む霧多布湿原



町の花 えぞかんぞう